

## 2011年3月11日福島第一原子力発電所事故

# 忘れて いませんか？

## 1986年4月26日チェルノブイリ原子力発電所事故

忘れていませんか？

福島原発事故から5年。

あの日の危機感、恐れ、喪失感、フクシマへの思い。

原発事故現場で命がけで作業を続けてくれた人たちの尊い努力のおかげで、  
東京を含む半径 250 キロ圏から 5 千万人が避難を迫られる

「最悪のシナリオ」が避けられたことを。

原発稼働ゼロの 1 年 11 ヶ月間、必要な電力は足りていたことを。

フクシマは、まだ終わっていないことを。

2011年3月21日  
福島第一原発3号機



▲写真=東電

### 視察報告とこれから

#### ■ contents

福島視察報告

チェルノブイリ視察報告

これからへの決意



2015年10月14日 チェルノブイリ原発

▼右から1、2、3、4号機 写真=東電



2011年3月20日 福島第一原発

# 原発事故はコントロールされていない

飯館村や富岡町など住民が避難している地域や海上からも何度か視察している。避難住民は家族が離れ離れになっているケースが多く、地域社会も分断され、ばらばらになっている場合が多い。

政府は住宅地域の放射能除染を行い、放射線量が一定以下になった地域から帰還できるとしているが、除染しても山からセシウムが流れて出て再び線量上がる地域もあり、また若い人は新しい地域で生活を始めていて、元の住居に帰還を希望しない人も多い。

事故を起こした原発1〜3号では今も格納容器内部にメルトダウンした核燃料であるデブリが残り、内部は極めて放射



⑥

⑧

⑦

⑨

(写真)①3号機の様子。作業は難航している②防護服での視察③海水と海底の砂を採取④砂は海水よりも放射性物質は多い。専門機関に測定を依頼⑤施設からの排水⑥福島第一原発を海上から視察。周辺にだけ霧が発生しているが原因は不明。溶け落ちた核燃料デブリの影響を指摘する識者もいる⑦山積み汚染土⑧2.5μSv/hを示す⑨農地なども測定。10μSv/h。事故の影響は未だ残る

線量が高い。廃炉まで40年以上かかるだろう。作業は難航すると予想されている。

# 廃墟となったまち・心配される甲状腺がん 老朽化する石棺 廃炉のめどは立たず

チェルノブイリ



①



④



②

⑤



③

事故から30年を経たチェルノブイリ原発を視察した。30キロ圏は許可のある人しか入れない状態が続いている。原発近くの町は廃墟となつて植物が茂つていた。

事故当時子どもであった人をはじめ健康診断が続けられており、専門家によつては甲状腺がんやその他のがんの発生を心配する声がある。

事故を起こしたチェルノブイリ4号炉は石棺でおおわれているが、放射能漏れの心配から、石棺を巨大な金属製のドームで覆う作

業が行われていた。ドームは2017年には完成予定。



⑦



⑧



⑨

(写真)①チェルノブイリ原発からほど近いプリピャチにある遊園地。オープン直前に事故があり一度も子どもを楽しませることはなかった②③⑤チェルノブイリ周辺は今も人が住めないゴーストタウン④プリピャチの入口⑥事故を起こした原発の模型。福島原発ではここまで様子が分かっていない⑦老朽化した石棺を覆うためのドーム⑧事故で消えたまちの名前が書かれたモニュメント⑨放射能を浴び必死の作業をして亡くなった消防士のモニュメント。世界を救った人たちと記されている

安全面からも経済面からも必要

忘れてはならない

# 脱原発へ全力

これまでも、これからも



①



③



②



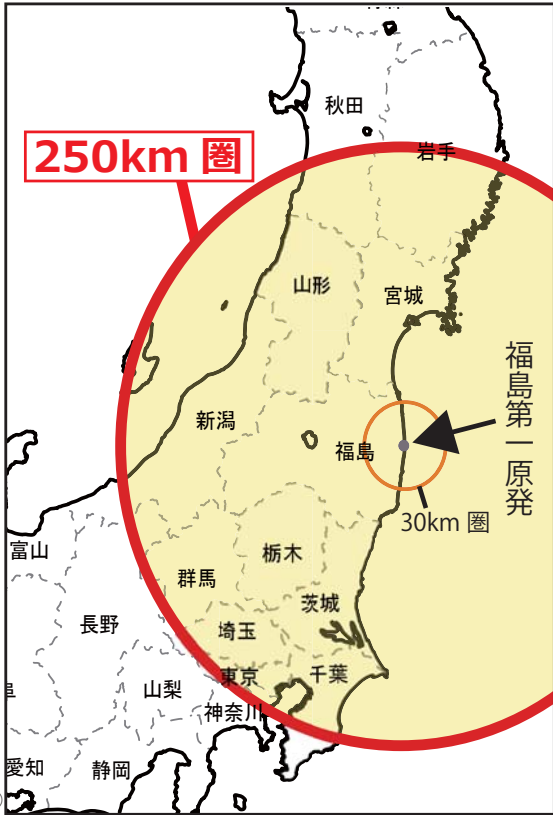
④



⑤



⑥



福島第一原発

⑦



(写真)①②福島県で被災者から話を伺う③帰還困難区域の前で。線量は5.5μSv/hを超えている④川内原発再稼働に反対⑤シールズと街頭演説⑥国会でも原発問題を追及⑦原発事故による「最悪のシナリオ」で避難が想定された250km圏内。東京が入る⑧福島で行なわれている洋上風力発電。希望だ

福島原発事故は東京を含む250キロ圏から5000万人の避難が必要となる瀬戸際の事故であった。もしそうならなかったら、日本は国として崩壊の危機に陥っていたであろう。そうした深刻な事故であったことを忘れてはならない。

私はその危機を体験する中で、原発容認から脱原発に考えを変えた。そして、事故後の5年間で原発が無くて必要な電力が供給できることは証明された。

特に太陽光や風力など再生可能エネルギーによる発電は世界中で急激に増えており、日本も原発に回帰す

るのでなく再エネの拡大に進むことが、安全面からも経済的観点からも望ましい。

私は、原発事故の時、総理であった者の使命として、脱原発にこれからも全力を挙げて取り組みます。市民の皆さんとともに。

(2016年3月11日 菅直人)

写真協力：五十嵐和博氏